

ふき

農薬取締法上「ふき」と「ふき（ふきのとう）」は別の作物である。

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

作型・病虫害名		月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
促	成			収穫					掘あげ冷蔵	○××××	▲定植			
抑	制								○××××	○××××	▲			
白	絹	病												
灰	色	病												
半	身	病												
コ	ナ	ジ												
ア	ブ	ラ												
フ	キ	ノ												
ヨ	ト	ウ												
ハ	ス	モ												

白絹病

留意事項

- 1 高温多湿が続くと発生が多い。
- 2 かん注は地際部にもよくかかるよう株元に行く。
- 3 SDHI剤<7>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 被害株は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 2 田畑輪換を図る。
- 3 定植前または植付時に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [リゾレックス粉剤](#) <14> 【20～40kg/10a 土壌混和 定植前／1回】
 - ・ [バリダシン液剤5](#) <U18> 【800倍 30分間種茎浸漬 植付時／1回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を土壌に処理する。
 - ・ [リゾレックス水和剤](#) <14> 【1000倍 株元かん注 3L/㎡ 21日／1回】
 - ・ [バリダシン液剤5](#) <U18> 【800倍 かん注 3L/㎡ 7日／5回】
 - ・ [モンカット水和剤50](#) <7>
 - 【1000～2000倍 土壌かん注 3L/㎡ 定植時および生育期(収穫30日前)／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

灰色かび病

防除方法

- 1 被害株は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 2 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ダコニール1000](#) <M 5> 【1000倍 21日／2回】
 - ・ [セイビアーフロアブル20](#) <1 2> 【1000倍 7日／2回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スミブレンド水和剤](#) <2> <1 0> 【1500倍 14日／2回】

半身萎凋病（はんしんいちょうびょう）

留意事項

- 1 本病は土壌伝染及び種茎伝染し、なす・トマト等の半身萎凋病と共通の病原菌である。
- 2 発病適温は気温22～26℃である。

防除方法

- 1 連作を避け、田畑輪換を図る。
- 2 種茎は発病の見られないほ場の健全株から採取する。
- 3 被害株は根を含めて早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 4 夏期高温時に太陽熱利用による土壌消毒を行う。（Ⅻ土壌消毒 参照）

モザイク病

防除方法

- 1 ウイルスによるモザイク症状や萎縮が発生した株は廃棄し、種茎として用いない。
- 2 アブラムシ類の防除に努める。（アブラムシ類の項 参照）

コナジラミ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 収穫後の作物残さは処分する。
- 2 施設では、開口部を寒冷しゃやネット（目合い0.4mm以下）で被覆する。
- 3 ほ場内や周辺部の除草を徹底する。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) <4 A> 【2000倍 7日／2回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 <4 A> 【3000倍 14日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [アプロード水和剤](#) < 1 6 >
【タバココナジラミ類幼虫（シルバーリーフコナジラミ幼虫を含む） 1000倍
21日／3回】
- ・ [サンマイトフロアブル](#) 劇 < 2 1 A > 【1000倍 14日／2回】

アブラムシ類

留意事項

- 1 ウイルス病を媒介する。
- 2 パダンSG水溶剤は、眼に対して刺激性があるので、調製時には保護メガネを着用して眼に入らないよう注意する。

防除方法

- 1 施設では、開口部を寒冷しゃやネット（目合い0.8mm以下）で被覆する。
- 2 ほ場内や周辺部の除草を徹底する。
- 3 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) < 4 A >
【20kg／10a 土壌表面散布
定植後～生育期（草丈20cm頃まで）（収穫45日前）／1回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [パダンSG水溶剤](#) 劇 < 1 4 > 【1500倍 7日／2回】
 - ・ [アドマイヤーフロアブル](#) 劇 < 4 A > 【4000倍 7日／2回】

フキノメイガ

留意事項

- 1 地下茎にも食入することがある。
- 2 パダンSG水溶剤は、眼に対して刺激性があるので、調製時には保護メガネを着用して眼に入らないよう注意する。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トレボン乳剤](#) < 3 A > 【1000倍 14日／3回】
 - ・ [パダンSG水溶剤](#) 劇 < 1 4 > 【1500倍 7日／2回】

ヨトウムシ

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トレボン乳剤](#) < 3 A > 【1000倍 14日／3回】
 - ・ [BT剤](#) < 1 1 A > （Ⅸ野菜類の病虫害防除 3野菜類 参照）

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ハスモンヨトウ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 < 1 3 > 【2000倍 7日／2回】
 - ・ [アタブロン乳剤](#) < 1 5 > 【2000倍 3日／3回】
 - ・ [ファルコンフロアブル](#) < 1 8 > 【4000倍 3日／2回】
 - ・ [BT剤](#) < 1 1 A > (IX野菜類の病虫害防除 3野菜類 参照)

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。